PART2　だに（類推と最低限の限定・副助詞）

★「類推」の構文

A （サエ）**だに** **すら** B

「（　　）」

C はなおさら ＿＿＿

（例）ここぞ関屋の跡とばかりいへど、
この頃は、荒れたる板屋**だに**なく、まいて守る人もなかりき。

★〈「だに」の意味の見分け方〉＝「　　」を見る。

だに＋〜「　　」・「　　」・「　　」・「　　」

限定用法

（例）

苔の袂よかわき**だに**せよ。

見てけりと**だに**知られむと思ひて、…

問二　傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

あはれなる御遺言ども多かりけれど、女のまねぶべき事にしあらねば、この片端だにかたはら痛し。

ア　遺言は、女の私が理解することができない内容だったので、少し聞いただけで興味を失ってしまった
イ　遺言が、女が聞いて人に伝えてよい性質のものであったならば、全てを詳しく書けたのにと残念に思う
ウ　女の私は、これまで漢字を学ぶ機会がなかったので、遺言の一部分しか理解できなかったのが悔しい
エ　遺言は、女の私が聞いて人に伝えるようなものではないので、こうして少し書くことさえも気がとがめる
オ　仮に私が女で、漢字を学んでいなかったならば、遺言がわからないふりができたのにと悔やまれる

問三　「今日だに日もとく暮れなむ」の現代語訳として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　きっと今日だけは日も早く暮れるだろう
イ　おそらく今日は日も早く暮れるだろう
ウ　その上今日までも日も早く暮れてほしい
エ　せめて今日だけでも日も早く暮れてほしい

問四　「もの一言をだに言はむ」の現代語訳として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　さらに何か一言を言わせてください
イ　今ごろ何か一言を言っているだろう
ウ　せめて何か一言だけでも言ってやろう
エ　かつて何か一言だけ言ったことがあった
オ　そのうち何か一言を言うことがあるだろう

問五　「とぶらはむと言ひし人さへ、かのわたり近く来ゐて待つなれば」の現代語訳として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　お見舞いしますと伝えた人なのに、病気をおしてこちらに近い所に来て待つということなので、
イ　弔問に行くだろうと伝えてきた人でさえ、まだ桂の近くで待っている状態であるから、
ウ　桂の邸に来たいと言っていた人が、そのすぐ近くに来るので滞在して待つ予定だから、
エ　こちらから訪ねようと言っておいた人まで、桂の邸の近くまで来て待っているそうなので、

第23講　PART2　確認問題

① 「一文字（いちもんじ）をだに知らぬもの、…」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　一という文字さえ知らない者
イ　一という文字しか知らない者
ウ　一という文字だけでも知りたいという者
エ　一という文字までも知らないという者

② 「家の人どもに物をだに言はんとて、…」の傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　家の人たちに物を言うことさえできないなんて、という類推の意味を表している。
イ　家の人たちに言葉をぜひかけておこうという強調の意味を表している。
ウ　家の人たちにも言葉をかけておこうという添加の意味を表している。
エ　せめて家の人たちと何か話すだけでも、という最低限の限定を表している。

③ 「いま一(ひと)きざみの位をだにと、贈(おく)らせたまふなりけり。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　一つ上の位さえも　　イ　せめて一つ上の位だけでも
ウ　一つ上の位は無理でも　　エ　そのうえ一つ上の位までも

④ 「いとどかきくらす涙の雨さへ降り添ひて、…」の傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　最低限、涙の雨だけでもということを意味する。
イ　雨よりも激しい涙の雨をいっそう強調する。
ウ　涙の雨に限定することによって雨を否定する。
エ　雨と涙の雨とを並べて対比する。
オ　雨のほかに涙の雨まで加わることを意味する。

⑤ 「いまはとて忘るる草のたねを［　］人の心にまかせずもがな」の傍線部の意味が、「せめて忘れ草の種だけでも」という意味になるように、［　］に入れる副助詞として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　すら　　イ　ばかり　　ウ　だに　　エ　まで

第23講 PART2 解答

問二　エ
問三　エ
問四　ウ
問五　エ

第23講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「だに」は、下に打消や反語の表現を伴って類推の意味を表す。よって、「〜さえ（知らない）」という意味になる。よって、アが正解。

② 「言はん」は、「言おう」という意志を表しているので、「だに」は、「せめて家の人たちと何か話すだけでもと思って…」という最低限の限定を表している。よって、エが正解。

③ 下に打消や反語の表現がないので、「だに」は「せめて〜だけでも」という最低限の限定を表している副助詞。よって、イが正解。

④ 「さへ」は添加の働きの副助詞。よって、オが正解。

⑤ 「せめて〜だけでも」という最低限の限定を表すのは、ウの「だに」。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ア　② エ　③ イ　④ オ　⑤ ウ